

平成21年度評議員会 第115回定時総会報告

—評議員会にて大山萬夫会長を再任—

平成21年度評議員会は、平成20年11月22日（土）午前10時から、如水会館において開催された。関 泰忠専務理事の司会のもと、江崎梅太郎副会長の開会の辞で評議員会は始まった。点呼は受付の署名簿をもって替え、評議員総数155名中、出席113名（10時現在）で会議は成立した。

大山萬夫会長の挨拶は、別掲の通りである。次に関専務理事より来賓の紹介があり、来賓を代表して熱田俊之助理事長、金子 讓学長よりご挨拶をいただいた。その要旨は別記の通りである。

議長・副議長の選出

司会者の一任となり、議長に八南支部、池田恒彦評議員、副議長に、横浜中央支部、加藤木健評議員が選出された。議事録署名人には川崎支部、飯田涼二評議員、小石川支部、稲田勝紀評議員が議長より指名された。

報告

報告に先立ち、代理出席者の承認が諮られ承認された。次いで118名の物故会員に対して全員黙祷を捧げた。平成21年度会務報告、厚生部報告、旅費規程の変更についてが関専務理事より、次いで高橋義一会計担当理事から平成21年度会計現況報告がなされ審議の結果承認された。

（東京歯科大学の現況報告）

金子学長と井出副学長から大学の現況報告が行われた。

金子学長報告

現在の教育改革は第2の高等教育改革の傘下にある。護送船団方式の運営から競争環境の大学運営に変わ

っている。そのような大学環境の変化の中で考えられた東京歯科大学将来構想と大学運営について説明された。

井出副学長報告

教育の現況と移転について井出副学長から説明があった。

摂食・嚥下リハビリテーション・地域歯科診療支援科やインプラント実習・講義という新しい授業、歯科医師国家試験の現状などについて話された。

また移転に関しては、水道橋校舎は来週から基本設計に入る段階にあり、千葉校舎に比べコンパクトな設計になる予定ということである。

さいかち坂校舎は2012年4月開校の予定。続いてリパーク跡地にはその1年後に開校の予定ということである。

またTDCビルの三崎神社側の土地も買収を進めており、水道橋校舎隣接ビルになるということであった。

（事前質問について）



昨年と同様に各評議員には評議員会資料と伴に議事進行を円滑に行うため事前質問用紙が同封され、事前に質問をお願いした。

1) 板橋支部 森岡俊介評議員より①本会会員種別について、②本会と地域支部連合及び支部との関係について質問があった。また同様の質問が富山県支部 金川直博評議員からも提出された。

関 ①について来年度は会員の声を多く取り入れた作業部会をつくり、しっかりと協議をして決定するべきと考えている。②では地域支部連合会は同窓会の組織構造として地域格差を生じている。今後地域事情



も考慮した上、で検討していく。

2) 横浜南部支部 玉井達人評議員からは評議員改革、評議員の削減において支部会員の一人一人の考えが反映される機構をつくって欲しいとの要望があった。また大学移転の協力に関して「最初に寄付ありき」ということではないようにしていただきたい。

関 大学への協力は同窓会として最重要項目と考えている。今後とも大学と協議し最善の方策がとれるようにしたい。また寄付金の使用目的は血脇記念ホールへの建設資金であり使用目的がわかる寄付であることを強調して同窓の理解を求めたい。

3) 愛知県支部 牧野健司評議員からは第7号議案地域支部連合会の総会開催回数の質問があった。

関 地域支部連合会の現状は地域性に見合った運営がなされている。地域の意見を聞きながら協議していきたい。また今回の改正は支部連合総会は必ず年1回開催せねばならないということを経験によってお考えいただき、規定はしないとするものです。

4) 千葉県支部 曾我部勉評議員より共済の申請に関して質問があった。

関 支部長必携には申請後最初の2年は延期、以後再申請により免除に移行するような取扱になっている。現状では延期申請の後免除申請がなされずに延期状態が続いている会員も少なくない。今後は本部から申請状況について注意しその改善を図りたい。

議事

第1号から第5号議案までの平成20年度決算関係の議案が一括上程され、高橋理事ならびに中島理事より議案の説明があり、浅野薫之常任監事が監査の結果を報告した。質疑の後、第1号より第5号までの議案が原案通り可決承認された。第6号議案

は中島理事より議案の説明があり、原案通り第6号議案が可決承認された。第7号(会則一部変更)、第8号議案(共済規定一部変更)は中島理事より議案の説明があり、質問を受け採決が行われた。審議の結果執行部案通り可決承認された。第9号より第12号議案までは一括上程され、関専務理事、高橋理事より議案の説明があり、各号に質問を受け逐次採決が行われ第9号より第12号議案まで原案通り可決承認された。第13号から第16号議案は一括上程され審議され可決承認された。第17号議案役員改選は、会場内より大山会長を推薦する声があり次期会長に大山萬夫現会長が引き続き選出された。また同様に常任監事に浅野薫之現監事、監事に原武仁現監事が再度選ばれた。また大学支部の柳澤孝彰評議員が監事に新たに選出された。

協議

関専務より協議事項についての説明がなされた。「同窓会とは本学であれば歯科医師を志し、同じ学び舎で研鑽を積み育った者たちが、年代や性別を越えて集い、先輩を敬愛し後輩を愛おしみ、広い意味で信頼と友情を深める場、または深めた結果の場である。」このような精神のもと現在の同窓会組織構造や事業が生まれ運営されている。同窓会の組織構造や運営方法については私たちを取り囲む社会状況を配慮し柔軟かつ的確に対応するべきと考えている。現在のこの状況で現状維持では将来がない。早急な対応が必要と考えている。そこで資料「同窓改革に向けての提案」をお送り同窓会の改革の提案をさせていただいた。その内容は、

① 同窓会組織構造のスリム化
支部、地域支部連合会、本部のピラミッド構造の構築であり、それに伴うネットワークの構築、本部の機構改革、評議員定数改正が問題になる。

② 母校との相互信頼と連携強化

③ 次世代の育成

これらのことから5つの改革案を提案いたしました。活発なご意見を賜りたい。

会場からは次のような意見が出された。

1) 若い同窓生の意見が反映される会であってほしい。その機構をつくるべきだ。また大学を卒業した若い人たちに対する同窓会の把握ができていないのではないだろうか。

2) 同窓生が開業するときになにも手伝わなくて、同窓会には入れないといけない。若い先生をサポートする



体制ができていないのではないだろうか。

熊本では夏休みに学生が帰った時に酒を飲み交流している。先輩と後輩の繋がりを強くするべき。

3) 学術ではシニアを中心とした講演会を行って欲しい。



4) このような同窓会改革の問題に対しては、総合的な委員会を立ち上げ検討するべきである。

5) 評議員の定数について、支部の統廃合は本部では積極的に行わない

としているが、牛込では15名のうち12名が終身会員である。活動が立ち行かなくなってきた面もある。本部主導で支部の統廃合を行うべきではないか。

県歯の会長、日歯役員等は評議員とするよりも嘱託等にするべきではないか。

6) 地域支部連合会、支部での協議題を知りたい。本部から協議題を出すことも必要ではないか。

7) 地域支部連合会、地域理事、支部の形はどのようにするべきなのか議論していただきたい。

これまで支部の統廃合の例はあまりないと聞いている。やはり本部主導で統廃合は行うべきである。

8) 長野では支部を一つにすることはできても会員が集まることは難しい。やはり各支部に任せるべきであるし、地域支部連合会に権限を持たせるべきではない。

9) 東京歯科大学緊急時歯科医師委嘱制度についてどのような検討が行われているのか。

野上常任理事 緊急時歯科医師以来の方法、依頼発生とその後の流れ、委嘱依頼書、緊急時委嘱歯科医師募集要項などの検討を行っている。

10) 同窓会は会員がありがたいと

思える会になってもらいたい。緊急時委嘱制度に賛成である。

平成21年度叙勲・褒章受章者の顕彰式ならびに同窓会会長賞表彰式

中島理事より平成21年度に叙勲・褒章を受章した6名の紹介があり、大山会長より顕彰状と記念品が伝授された。代表して町田名誉教授より謝辞が述べられた。

次に今年で第4回同窓会会長賞表



彰式に移り、最優秀賞に國分克寿君、優秀賞に久保浩太郎君、塩谷宗大君の3名にそれぞれ大山会長より表彰状と金一封が伝授された。服部玄門副会長の閉会の辞で本年度の評議員会は終了した。

第114回同窓会定時総会

第115回定時総会は関専務理事司会のもと柳清二副会長の開会の辞で始まり、会長挨拶の後、議長に加藤木健会員を選出、また議事録署名人に有近徳幸会員、北村一会員が指名

され総会が進められた。まず関専務理事より平成21年度会務報告、池田恒彦評議員会議長より評議員会報告、高橋理事より平成22年度予算関係の報告があり承認された。議事に入り、平成20年度決算関係並びに財産目録の6議案提案の後、原武仁監事の監査報告がありそれぞれ審議され承認可決した。

片倉恵男副会長の閉会の辞では「疾



風知勁草」の言葉を示し強い意志を持って東京歯科大の発展のため同窓が一丸となること願ひ総会は終了となった。

総会終了後の懇親会には川口浩衆議院議員（昭和54年卒）を迎え、また会長賞優秀賞の塩谷君も出席し若い先生の問題などを話された。多数の同窓の出席し和やかな雰囲気の内にと終了した。

評議員会挨拶



大山会長挨拶要旨



地区の支部ならびに地域支部連合会総会に出席させて頂いた際には地区の問題の御進言をありがとうございました。これから会の運営に反映さ

熱田理事長挨拶要旨



今回の衆議院議員選挙では北関東ブロック比例区から昭和54年卒の川口浩先生（民主党）が当選した。東京歯科の多数の同窓がこれまで国政で活躍されてきたが、非常におめ

金子学長挨拶要旨

大学の現状

歯科大学の受験者総数は現在激減している。これは歯科医師の医療収入の低減が原因である。

日本経済はそう簡単に回復いたしません。今後の学生の募集において大きな課題は学納金の減額である。これが財務上で大変大きな問題となる。

せていきたい。各地区で会員特に若い人が少なくなってきたと指摘を受けている。このような問題をいかに解決するか、三月から事業等特別委員会を立ち上げた。

同窓会を足腰の強い経済的基盤のしっかりとしたものになければ今後先細りになると感じる。

また日歯や地区の歯科医師会での同窓のトップとしての活躍が以前より少なくなっているのではと危惧し若い人たちを育ていかなければいけないという声も聞こえてくる。そのような意見に答えようとした結果が事業等特別委員会で答申された内容

でたいことで、歯科界発展のためご活躍を期待する。

移転に関しては昨年3月末法人理事会、評議員会において千葉から水道橋に全面的に移転すると決定された。私も理事長に就任しこの決議を踏襲することを申し上げている。ただし時局にあわせて進めるべきで、一部変更もありうるべきである。

現在順調に移転計画は進んでいる。このような移転計画の進展は、大学の各機関の合意を得て進めていることを御承知おきいただきたい。

先月19日法人の理事会において

である。今日の協議題として提出しているので皆様にご検討いただきたい。その上で栄光ある東京歯科大学同窓会として是非新たな体制で進みたいと考える。

大学の移転については大学にお聞きしたところ十分に検討をされ適切に対応されている。また来年には水道橋各新校舎の基本設計が出来、予算が出ると聞いている。応分の寄付をお願いするということである。その節には我々東京歯科同窓会として恥ずかしくない対応とご協力をしたい。

移転の基本計画に則って2か所の土地に建設することを決定した。これから井出建設担当常務理事を中心に基本設計に入っていくことになる。

大学と同窓会の関係は従来になく緊密になっている。大山会長を私は大変信頼している。意見を同窓会を通じて寄せていただきたい。

法人は従来の基本計画に則り移転を推進していく。大学に対するご支援ご協力をお願いする。



営の上で課題となっている。

一方すでに文科省からの要請で国立大学は10%の定員削減のみ、次に私立歯科大学協会が定員減を迫られることになる。歯科医療、歯科医学に好結果を及ぼすならば、私どもは骨を削り、血を流しながら、やらなければいけないと思っている。

このような問題が現状では学務運